



林業労働災害レスキュー訓練

拡大中です!

奥山で林業労働災害が発生した際に備え、安全かつ迅速に被災者を救出する知識・手順を学ぶ「林業労働災害レスキュー訓練」を実施しています。

令和3年度からスタートし今年度で3年目となる当訓練は、昨年度までは一部の地域のみで開催でしたが、今年度は県内全ての農林事務所で実施し、消防署の協力のもと次の各訓練を行いました。

被災想定訓練

【緊急通報訓練】

訓練会場から携帯電話や衛星電話で実際に「119」番通報を行い、オペレーターからの質問に答え、被災場所や被災者の状況などを伝えました。参加者は、被災場所の伝え方に苦戦していましたが、消防署の助言を受け、携帯電話で調べた緯度・経度や付近の目標物などの情報により、現場の正確な場所を伝えていました。

【被災者の救出訓練】

訓練には、レスキューマネキン(重量48kg)を用い、倒木の下敷きとなったマネキンの救出を行いました。

救出作業時には、被災者や自身への二次災害の恐れがないことが大前提であると助言を受け、安全確認を確実にし、救出作業を始めました。倒木が重く持ち上がらないため、チェーンソーで玉切りし救出しました。



【救出訓練】

【被災者の搬送訓練】

動けない被災者を近くの道まで搬送するため、様々な搬送方法を学び実践しました。

リュックやロープで固定した被災者を背負って搬送、竹や杭丸太と作業着などを組み合わせて作った簡易担架による搬送など、傾斜のある林



【搬送訓練】

内から最寄りの道まで、苦戦しながら被災者を搬送しました。

【応急処置訓練】

救急隊が到着するまでの間に、自分で出来る三角巾を使用した止血や骨折時の固定の方法、また心肺蘇生法などについて学び実践しました。



【応急処置訓練】

爪の色で血液の循環状態が分かるため爪が隠れないようにするなど、注意点と共に正しい処置の仕方を学びました。

【総合訓練】

訓練の最後に、被災者の発見から救急隊が到着するまでの一連の対応を行う総合訓練を行いました。各訓練で学んだ知識を駆使し、安全かつ迅速に救出作業を行いました。

訓練の振り返り

被災想定訓練後は、訓練内容を振り返る意見交換を行いました。

参加者からは、「緊急通報訓練で焦ってしまった。作業現場の緯度・経度や電波状況を事前に把握し万一の際に備えることが重要である」と実感した。「急傾斜地で被災者を搬送することの大変さを身をもって認識した」など、現地訓練ならではの意見が多くありました。

また、「もっと色んな応急処置の方法を知りたい」「より危機的な状況など色々な想定での訓練を実施してほしい」といった今後の訓練に対する前向きな意見も多く聞かれました。

参加者からの要望なども取り入れ、当訓練がより良いものとなるよう今後も継続して実施していきます。林業関係者の緊急時の迅速な対応と安全意識の向上に繋がっていきます。

【森林経営課 担い手企画係】